

田ノ上チンワルド雲母

同

一五七分の一

長垂鱗雲母

同

一四九分の一

其放射能度に於ては從來知られたるものと大體に於て相違なきものと認められる。(渡邊)

○飯盛里安、吉村恂——長垂産鱗雲母の組成並に邦産雲母のリチウム含有量に就きて(理化學研究所彙報第五輯第二號 八二—八五頁 大正十五年)

長垂産鱗雲母の總分析の外、美濃苗木及近江田ノ上のチンワルド雲母、伊勢石博、近江田ノ上、伊豫馬刀湯、甲斐初鹿野及石見三瓶山の黑雲母、伊勢石博及近江田ノ上及び三河乙川の白雲母、朝鮮咸鏡道金の雲母についてアルカリの定量分析を行つた結果。(渡邊)

新著紹介

○岩石鑛物及鑛床の顯微鏡研究

木下龜城著 菊

版四百頁、横組、索引付、大正十五年九月發行、目黒書店 價四圓

此は全く良書である。鑛物の顯微鏡的研究は正規に大學で實習した人でなければ實際今日まで近づき難かつた。所謂外國の原書といふものは語學に深く通じなければむとさき得ない。生物學方面に於ける顯微鏡の使用が今日廣くゆきわたつてゐるに反し鑛物學方面では残念ながら利用が一般には及んでゐなかつた。それは一に良き道案内になる本がなかつたが

らであつた。鑛物學岩石學書にも少しは顯微鏡使用法が記されてはあつたが不充分でさて實際にあたるさかゆい所に手がまどかなかつた。本書は篇學の本誌にも時々筆をさられる學團員木下氏の數年にわたる苦心の結晶である。氏は長らく東北の野に九州の山に鑛物の研究に三度の飯を忘れてゐた人だ此本が悪からうはづはない。文章は平易で簡單でしかも極めて要を得て讀んで氣持のよいもの。全篇を分つてまづ顯微鏡の使用法をさく。此は光學の原理を巧に利用したもので進んで不透明鑛物の反射光線による觀察の法を説明し次に顯微化學研究法を説明す。此等の方法を利用した各鑛物の鏡下に現はれる特質も詳細に記し更に岩石を同様に研究し種々新らしき學說を加味す。最後に鑛床の顯微鏡下の特質を詳論す。此章は著者のもつとも得意とするところで大學の講義(今はどうか知らないが)にもないもの。だから本書は地質學入門の學生の好き參考書にまた文檢を受ける士の參考書になるは勿論地質學専門家にもまた座右に置き備忘に役立つもの。さくに私などは將來も盛に利用しやうと思つてゐる。さにかく良書である。日本最初の本である。我國の學問獨立の氣運に先するの書である。(M)

○臺灣地質鑛產地圖

縮尺三十萬分の一

臺灣地質鑛產地圖說明書

四六倍版二四五頁

臺灣總督府殖産局 大正十五年三月

明治四十四年に發行された臺灣地形地質鑛產地圖並に同說明書は臺灣の地質及鑛産を總括記述したものであつたが、既に

殘本なく手に入れることもむづかしくなつた。今度公にされた標記の者はもとのものを増補改訂せしものであつて、最近に至る調査の結果を綜合してある故、臺灣の地質及鑛産を知るには之に依る外はない。説明書は舊版と同じく第一篇地形第二篇地質、第三篇鑛産、第四篇應用地質に分ちて記述され特に鑛産に就いて記述する所が多い。猶説明書中には多くのコロタイプ版が挿入してあつて、新高山の寫眞も二つある地形と地質は市川雄一理學士により、鑛産應用地質は高橋春吉技師によつて編纂されたのである。(N)

雜 報

○紀伊日高郡白崎村の紡錘蟲石灰岩

日高郡由良から北西に亘つた半島部は島ノ巢石灰岩を挾んだ島ノ巢統

が廣く現はれて居る、私共は此の地方が總て島ノ巢統だと思つて居た、今夏京都帝國大學地質學教室の館林寛吾君が此の地方を歩いて採集して來た標本のうちに、白崎村黒山と白崎との石灰岩があつて共に *Fusulina japonica* を含み黒山のものには *Neoschwagerina craticulifera* もあり其の他有孔蟲や蘇蟲が遺入つて居る。この二箇所の石灰岩は共に大きな露出を爲して居るもので殊に白崎のものは東西五百米以上に達する。この北方の衣奈村の石灰岩には那智圖幅説明書による *Microbacina* があること云ひ島ノ巢統とされて居たが、最近

紡錘蟲のあることも判つた。

石灰岩以外の地層は角岩、頁岩、砂岩であつて中生、古生を外観上區別することが困難である。恐らく角岩には放散蟲があることであらるから化石の上からは放散蟲をたよりにして古生、中生兩界を別けなければならないと思はれる。兎も角島ノ巢統中に二疊紀が挾まれてあることは著しいことで、最近長尾氏は有田郡栖原北方の紡錘蟲石灰岩について礫であるか、眞の露出であるかを決定されかけてゐられるやうであるが、(地質學雜誌九月號)栖原北方のものとは石灰石を採掘した跡で礫ではなく數間の露出が道から東に一寸登つた桃畑の奥にあつた。つまりこんな古生代層のパツチが西南日本外帶の中生層中には衝上か何かの構造上の變動で狭く挿入してゐるのである。大きく云へば西南日本外帶の地層排列の有様は一般に考へられて居る様には規則正しくはなく且つ整然たるものでもない。(中村)

○朝鮮の大理石

朝鮮に産する大理石は色彩、種類共に豊富である。殊に咸北城津附近産の紅霞大理石は内地に似

寄りのものなく、褐色であつて、人に好まれ古くより知られ多く用ひられた。其の他白及鼠の霞大理石も優秀で所々光線を反射して美しい色を表はす。又平南順川郡から産出するものは小豆色大理石と稱し、淡赤色で石質密にて斑脈なく優秀である。新義の總督府廳舎で、内部に使用すべき朝鮮産大理石材は左記の九種を用ひた。此の外に安奉線下馬塘産の大理石三種をも併用した。